

少子高齢化と税

今の日本は少子高齢化が進んでいて、社会保障の費用が増え、その費用を負担する働き手が減ってきています。私は、初めて社会の公民の授業を習い、少子高齢社会の日本について学び、どこか他人事のように考えていた私は、これから私達が働き、社会を支える一員となることを考えると急に身近に感じ、親近感を抱きました。そして、その少子高齢化社会の到来が、社会保障の在り方に、大きな影響を及ぼすことを知り、私は驚きました。

私は、おばあちゃんが大好きです。明るくて、いつもおもしろいおばあちゃんは、私が小さな頃から面倒を見て、可愛がってくれました。私が、中学生になると、部活や、勉強などで忙しくなり、昔よりもおばあちゃんに会う機会が減ってしまいました。けれど、いつも私のことを応援してくれました。

長い休みの期間に入ると、私は、おばあちゃんの家に行き、一緒に料理を作ります。大好きなおばあちゃんと二人で料理を作りながら、学校であった楽しかったことや、大変だったこと、友達や家族のことを話していると不思議と心が軽くなって、じんわりと幸せな気持ち広がっていくのです。時間もあつという間に過ぎてしまいます。

「もっと一緒に料理をつくりたい。」

「健康に、長生きしてほしい。」

そう、私は心から思っています。なので、社会保障制度の中心となっている年金や医療、介護があることを知り安心しました。そして、老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには、大きな費用が必要とされていて、その財源は税金だということを本で読み、税金は、私達にとって、とても大きな存在で、税金に支えられている毎日に感謝しようと思えました。ですが今の日本は、少子高齢化の進行により、社会保障制度の費用が増える一方で、そうした費用を負担する働き手が減ることにより、働き手の負担が重くなっていきます。私は、今の高齢者を支える費用もとても大切だと思いますが、未来の人も支える費用も大事だと考えます。

現在の高齢者を支え、現在の働き手として頑張っている人達の、老後の安定した暮らしや健康で文化的な生活を実現するために、これからも多くの費用が必要で、その財源の中心となるのは、税金や保険料だということを今回の作文を書いていく上で学びました。

私達は、税金の果たす役割について、理解を深めると同時に、社会保障と税負担の在り方についても、色々な角度から考えていくことで、豊かで安心してくらせる未来を作り上げていくことができると考えます。